

## 第4 水産業・漁村の有する機能

### 1 本来機能

福岡市の水産業や漁村は、本来的機能として、市民に新鮮な魚介類を安定的に供給しており、全国的に定着している「魚がおいしいまち福岡」のイメージに大きく寄与しています。

### 2 多面的機能

#### (1) 地域社会の形成・維持

漁村は、漁業者をはじめとして地域住民が居住し、漁業生産活動が継続的に行われることを通して、様々な役割を果たしています。

#### (2) 自然環境保全

自然環境の面から見ると、福岡市の生活排水に含まれる窒素やリンなどの栄養塩は、博多湾に放流され、赤潮などの問題を発生させる原因にもなりますが、植物プランクトンから魚介類につながる食物連鎖により固定され、漁獲されることで循環しており、特に、湾内で養殖されるノリ・ワカメは栄養塩を直接消費し、物質循環を補完しています。

藻場は、魚介類の産卵場・生息場であり、海の生物の生活史において不可欠な場所であるとともに、海藻自身はその生育に栄養塩を取り込むため、海の浄化にも役立っています。あわせて、漁業者は有害生物の駆除や海底ごみの回収などの環境保全に大きく貢献しています。

#### (3) 交流の場の提供

都市部に住む市民にとって、潮干狩りや、遊漁船に乗っての遊漁は非日常的な楽しみであり、海洋性レクリエーションや体験学習の場を提供しています。

#### (4) 海の安全・安心の提供

海難事故発生の際、漁業者は救助活動などに大きな役割を果たすとともに、油流出事故の際、多くの漁業者が油回収活動などに活躍しています。

また、赤潮や有害生物の大量発生など海の異常現象の多くは漁業者によって早期に発見されています。

このように、魚介類の提供のほかにも、市民の生活を支える様々な役割を担っています。